2021/08/29
ヨハネの福音書　講解メッセージ⑥⑤
『あなたを助ける神』ヨハネ 21:13-25

■あなたを助ける神

> 「イエスは来て、パンを取り、彼らにお与えになった。また、魚も同じようにされた。イエスが、死人の中からよみがえってから、弟子たちにご自分を現されたのは、すでにこれで三度目である。」（ヨハネ 21:13-14）

イエス様は、弟子たちの空腹を満たしてくださいました。神様は、精神的に人を助けたり、励ましたりするだけでなく、物質的にも助けてくださいます。実際にイエス様は、この地上で多くの病をいやしてくださいました。神様は、精神的にも物質的にも、マイナスをプラスに変えてくださる方なのです。

また、イエス様は、弟子たちの前に繰り返し姿を現してくださいました。それは、私たちの疑いや不安がなくなるまで何度でも付き合ってくださるということです。

私たちが目指すべきは、どこまでも神様を信頼できるようになることです。神を愛するとは、神を信頼することです。疑いや不安があるなら、神様はそれを取り除くために、何度でも付き合ってくださいます。

■ビジョンを与える

> 「彼らが食事を済ませたとき、イエスはシモン・ペテロに言われた。「ヨハネの子シモン。あなたは、この人たち以上に、わたしを愛しますか。」ペテロはイエスに言った。「はい。主よ。私があなたを愛することは、あなたがご存じです。」イエスは彼に言われた。「わたしの小羊を飼いなさい。」」（ヨハネ 21:15）

「あなたは、この人たち以上に、わたしを愛しますか。」もし、あなたが神様からこの質問をされたら、どう答えるでしょうか。

イエス様は、「この人たちを愛する以上に私を愛してほしい」と、望まれました。それは、裏を返すと、あなたを本気で愛しているということです。「私はあなたを本気で愛している。あなたも本気で愛するか。」と問うておられるのです。

そして、この会話はペテロの人生を 180 度変えました。ペテロが「愛します」と答えると、イエス様は「わたしの小羊を飼いなさい」と言われました。それは、「私と共に福音を語っていきなさい」ということです。神はペテロにビジョンを与えたのです。

「イエスは再び彼に言われた。「ヨハネの子シモン。あなたはわたしを愛しますか。」ペテロはイエスに言った。「はい。主よ。私があなたを愛することは、あなたがご存じです。」イエスは彼に言われた。「わたしの羊を牧しなさい。」イエスは三度ペテロに言われた。「ヨハネの子シモン。あなたはわたしを愛しますか。」ペテロは、イエスが三度「あなたはわたしを愛しますか」と言われたので、心を痛めてイエスに言った。「主よ。あなたはいっさいのことをご存じです。あなたは、私があなたを愛することを知っておいでになります。」イエスは彼に言われた。「わたしの羊を飼いなさい。」」（ヨハネ 21:16-17）

イエス様は弟子たちの前に 3 度現れ、ペテロに 3 度尋ねました。これは、イエス様の本気を表しています。そのイエス様に、ペテロも本気で答えました。こうして、ペテロに、「福音を語る」というビジョンが示されたのです。こうしてペテロは、この先、初めての教会を形成する働きをしました。

あなたはどうでしょうか。もしイエス様が、同じことを 3 度聞いてきたら、躊躇せず、3 度とも本気で答えられるでしょうか。

神は本気で私たちを愛しておられます。あなたが本気で答えるなら、神はあなたにビジョンを語り、あなたの方向をはっきりと示してくださるのです。

「ああ、シオンの民、エルサレムに住む者。もうあなたは泣くことはない。あなたの叫び声に応じて、主は必ずあなたに恵み、それを聞かれるとすぐ、あなたに答えてくださる。たとい主があなたがたに、乏しいパンとわずかな水とを賜っても、あなたの教師はもう隠れることなく、あなたの目はあなたの教師を見続けよう。あなたが右に行くにも左に行くにも、あなたの耳はうしろから「これが道だ。これに歩め」と言うことばを聞く。」（イザヤ 30:19-21）

もしあなたが、神様に本気で答えるなら、神様は「私が道を示すから、ついてきなさい。」と約束しておられます。だから、「私の声を聞きなさい」と言われるのです。こうして、私たちは新たな人生を歩みだすことができるのです。

それは、しばしば苦しみの中で語られます。残念なことに、人は苦しみに合わなければ、なかなか本気で祈ろうとはしません。しかし、本気で神様に祈る中で、御言葉が心に深く届く体験をすることができます。神様が自分に望んでおられることがはっきりとわかり、喜びが心に湧き上がります。

あなたにも、あなたの人生を変える神との出会いがあります。「あなたはわたしを愛するか」と、神は聞かれます。本当に自分の人生を変えたいと願うなら、「愛します」と答えましょう。必ずビジョンが与えられます。

■患難に備えて

「まことに、まことに、あなたに告げます。あなたは若かった時には、自分で帯を締めて、自分の歩きたい所を歩きました。しかし年をとると、あなたは自分の手を伸ばし、ほかの人があなたに帯をさせて、あなたの行きたくない所に連れて行きます。」これは、ペテロがどのような死に方をして、神の栄光を現すかを示して、言われたことであった。こうお話しになってから、ペテロに言われた。「わたしに従いなさい。」」
（ヨハネ 21:18-19）

イエス様はペテロにビジョンを与えましたが、それは同時に、患難に出会うことでもありました。そこでイエス様は、患難に会った時にどうすればよいかを、前もって語られました。それは、「私に従いなさい」ということです。これが、答えです。

私たちは人生の中でいろいろな問題にぶつかります。でも、何があってもつぶやかないで私に従いなさいと、イエス様は語っておられます。

「患難にぶつかった時、主に従う」とは、具体的にどのようなことか、聖書が教えている試練に対する正しい対処法を学びましょう。これは、聖書の公式です。この方法をもって、患難に向き合いましょう。

■苦しみは神から来たのではない

患難にぶつかった時、第一におさえておくべき点は、患難は神が与えたものではないということです。神は良い神であり、良い物しか与えません。

私たちにとってのマイナスは、すべて死がもたらしたものです。この世界に、有限性という死が入り込んだことで、人は罪を犯すようになり、過ちを犯すようになり、けがや病気を負うようになりました。その死の出どころは悪魔です。

試練は神から出たものでも、神の罰でもありません。この出発点を間違えると、そのあとの解決方法をすべて間違えてしまいます。

聖書の中で、試練に特化しているのはヨブ記です。そのヨブ記 1 章に、試練はサタンが持ち込んだものであると記されています。ただ、神はそれを静観し、そして、その後は、そこから人を助け出すことしかしておられません。苦しめるものから私たちを助け出すのが神なのです。神様は一貫して「あなたを助ける」と語り続けておられます。

試練は、神から来るものではなく、神にとっては、あなたを助け出す機会です。それは、あなたの信仰を確かなものとし、神様を信頼する機会となります。

「私の兄弟たち。さまざまな試練に会うときは、それをこの上もない喜びと思いなさい。信仰がためされると忍耐が生じるということを、あなたがたは知っているからです。その忍耐を完全に働かせなさい。そうすれば、あなたがたは、何一つ欠けたところのない、成長を遂げた、完全な者となります。」（ヤコブ 1:2-4）

私たちは自分が罪人であることがわかっているので、苦しみに出会うと神の罰ならば仕方がないと甘んじて受けようとしたり、反対に、なぜ神はこんな苦しみを与えるのかと、つぶやいたりします。

しかし、苦しみは、神が与えたものではありません。神はそこから助け出してくださいます。だからこそ、苦しみに出会ったら喜びなさい、と言われているのです。神の助けを受け取るチャンスが来たからです。それは、信仰が訓練され、どんなときも神様を信頼して平安に生きられるようになるチャンスなのです。

神様は、罪に対して罰を与えるのではなく、憐れむ方です。これを間違えてはなりません。神は人を裁くためではなく、いやすために来られたのです。

■神はそれを益とする

> 「神を愛する人々、すなわち、神のご計画に従って召された人々のためには、神がすべてのことを働かせて益としてくださることを、私たちは知っています。」
>
> （ローマ 8:28）

何が原因であっても、神様はすべてを益としてくださいます。それを信じるなら、すべてを感謝して生きることができます。

私たちはついあの時ああすればよかったと後悔してしまうものですが、神の福音はすべてのマイナスをプラスに変えます。神様は、どんな闇も光に変えることができるのです。神の愛はそれだけ深いものなのです。

■必ず脱出の道がある

> 「あなたがたの会った試練はみな人の知らないものではありません。神は真実な方ですから、あなたがたを、耐えられないほどの試練に会わせることはなさいません。むしろ、耐えられるように、試練とともに脱出の道も備えてくださいます。」
>
> （Ｉコリント 10:13）

神様は現実の問題からあなたを脱出させてくださいます。ただし、神様にとっての脱出の道とは、「あなたはわたしを愛するか」という問いに、「はい、愛します。」と答えられるようになることです。人は、患難によって砕かれることで初めて、その問いに「はい」と心から答えられるようになります。すると神はその人にビジョンをお与えになります。神が用意しておられる道はこれなのです。

試練の答えは、「あなたはわたしを愛するか。」つまり、「あなたが大切にしているものを私にゆだねられるか」と問われていることに気づき、あなたが応答するところにあります。

■神の話を慎重に聞くように

「ペテロは振り向いて、イエスが愛された弟子があとについて来るのを見た。この弟子はあの晩餐のとき、イエスの右側にいて、「主よ。あなたを裏切る者はだれですか」と言った者である。ペテロは彼を見て、イエスに言った。「主よ。この人はどうですか。」イエスはペテロに言われた。「わたしの来るまで彼が生きながらえるのをわたしが望むとしても、それがあなたに何のかかわりがありますか。あなたは、わたしに従いなさい。」」（ヨハネ 21:20-21）

私たちはつい比較してしまいます。しかし、イエス様は、誰が用いられるか、誰が愛されるか、比較するな、ただあなたは神を見てついてくればよいと言っておられます。

神様には、一人一人に神様の計画があります。神様は、あなたにその計画を示そうとして、「私についてきなさい」と言っておられるのです。

「そこで、その弟子は死なないという話が兄弟たちの間に行き渡った。しかし、イエスはペテロに、その弟子が死なないと言われたのでなく、「わたしの来るまで彼が生きながらえるのをわたしが望むとしても、それがあなたに何のかかわりがありますか」と言われたのである。これらのことについてあかしした者、またこれらのことを書いた者は、その弟子である。そして、私たちは、彼のあかしが真実であることを、知っている。イエスが行われたことは、ほかにもたくさんあるが、もしそれらをいちいち書きしるすなら、世界も、書かれた書物を入れることができまい、と私は思う。」（ヨハネ 21:22-25）

ところが、その後、イエス様が語ってもいない内容が、うわさとして広まりました。人間というものは、なんでも自分に都合よく解釈しようとするものです。しかし、あなたの人生を導く神のことばは、きちんと慎重に聞くように心がけましょう。御言葉を正しく理解することは、あなたの生き方を左右するからです。

「まことに、まことに、あなたがたに告げます。わたしのことばを聞いて、わたしを遣わした方を信じる者（信じている者）は、永遠のいのちを持ち（持っている）、さばきに会うことがなく、死からいのちに移っている（移った状態が続いている）のです。まことに、まことに、あなたがたに告げます。死人が神の子の声を聞く時が来ます。今がその時です。そして、聞く者は生きるのです。」

（ヨハネ 5:24～25（※カッコ内は、原語の正確な訳））

多くの人がこの御言葉を正しく理解せずに、自分と神様との間に距離を感じ、キリストを信じた後も自分が天国に行けるかどうか確信が持てずにいます。

しかし、イエス様のことばを正確に聞き取るなら、「あなたは、滅びの中にあったが、神の

ことばを聞いて信じたその時に、生きる者となった。」と宣言しておられるのです。あなたはすでに永遠のいのちを持っており、死からいのちに移されています。それは、すべて現在形で書かれていますから、これから先に起きることではなく、すでに起きていることを表しています。ですから私たちは、自分の救いに関して、何も心配する必要はありません。神の国はこれから実現するのではなく、あなたはすでに神の国に入れられているのです。これが一番重要なメッセージです。